

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

恭テ按スルニ皇族ト皇族トノ間ニ起ル訴訟ハ内廷ノ裁判ニ依ルヘシ故ニ宮内省ニ於テ之ヲ勸解セシメ勸解成ラサルトキハ特ニ裁判員ヲ命シテ之ヲ裁判セシメ更ニ勅裁ヲ經テ之ヲ執行セシム

其ノ他普通ノ民法ニ於テ裁判所ノ登録又ハ處分ヲ要スル者ハ皆宮内省之ニ當ル

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

恭テ按スルニ本條人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判スルコトヲ定ムルハ皇族ノ特權ヲ示スナリ而シテ其ノ詳細ハ蓋別

ニ之ヲ定ムル所アラムトス其ノ皇族ヨリ原告トシテ人民ニ對スル訴訟ハ仍普通ノ訴訟原則ニ依リ被告人ノ所轄裁判所之ヲ裁判スヘキナリ
普通ノ訴訟人ハ裁判所ヨリ本人訊問ヲ要シ召喚スルニ當リ訟廷ニ出サルコトヲ得ス而シテ皇族ハ自ラ出ルヲ要セサルハ此レ亦特權タリ
其ノ他ノ訴訟手續ニシテ此ノ典範又ハ他ノ法律ニ別段ノ條規ナキ者ハ總テ普通ノ裁判構成法及訴訟法ニ依ル

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

恭テ按スルニ皇族ハ犯罪アルモ之ヲ勾引スルコトヲ得ス其ノ現行犯ニ於ケルモ亦同シ又刑事ノ審問ノ爲ニ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス豫審判事書記ト俱ニ其ノ所在ニ就テ陳述ヲ聽クヘシ但シ天皇ノ勅許ヲ得タルトキハ例外トス

皇族證人タルノ場合ハ治罪法ニ之ヲ掲ク第一百八十七條而シテ勅許ヲ予フルノ限ニ在ラス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

恭テ按スルニ皇族ハ皇室ニ對シ忠順ノ義務ヲ負フ者ナリ故ニ皇室ニ不忠ナルト品位ヲ辱ムルノ汚行トハ俱ニ紀律ヲ敗ル者トシ懲戒ノ處分ヲ被ルヘシ

皇族懲戒ノ權ハ天皇ノ親ヲ執ル所タリ懲戒ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ又ハ全部ヲ剝奪ス停止ハ期限アリ剝奪ハ期限ナシ

第五十三條 皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産

ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

恭テ按スルニ皇族蕩産ノ所行アル者ニ對シ民法上治産ノ禁ヲ宣告シ及其ノ管財者ヲ命シ財産ヲ管理セシムルコト亦勅旨ニ由ル此レ固ヨリ天皇監督ノ權ニ屬スレハナリ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

恭テ按スルニ皇族會議ハ皇室ノ内事ニ付天皇ノ諮詢ニ應フヘク而シテ皇族ノ懲戒又ハ治産ノ處分ニ付テハ特ニ諮詢ヲ以テ必要トス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織

シ内大臣樞密院議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

恭テ按スルニ皇族會議ハ第一ニ皇室典範ニ係ル改正ノ諮詢ヲ受ケ第二ニ第十九條第二項及第二十五條ノ場合ニ於テ其ノ議ヲ經ルヲ要シ第三ニ皇嗣ヲ換フル時ニ諮詢ヲ受ケ第四ニ皇族ノ懲戒及治産處分ノ諮詢ヲ受ケ其ノ他皇室ニ係ル重要ノ事件及民法ニ於テ親族會議ニ係ル事件ノ諮詢ヲ受クヘシ其ノ議事ノ規則ノ若キハ蓋別ニ之ヲ定メラルヘキナリ

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

恭テ按スルニ天皇皇族會議ニ親臨セラル、トキハ親ラ會議ヲ統理セラル其ノ親臨セラレサルトキ又ハ親ラ會議ヲ統理セラレサルトキハ別ニ議長ヲ指命セラルヘシ

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

恭テ按スルニ典範ノ定ムル所ニ依レハ五世以下ノ王ハ親王ト稱フルコトヲ得ス本條ハ現在ノ宣下親王ノ爲ニ其ノ既得ノ尊榮ヲ奪ハサルナリ而シテ其ノ繼嗣以下未タ宣下アラサルハ典範ノ本則ニ依ルコトヲ知ルヘキナリ

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

恭テ按スルニ現在ノ親王家親王宣下アリシハ多クハ皇養子皇猶子タルノ近例ニ從ヒシナリ第四十二條ハ皇族養子ノ制ヲ廢ス而シテ現在既ニ行ヘル者ニ上及セス但シ皇位繼承ノ順序ハ總テ宗支遠近ノ實系ニ依リ養子猶子ノ名稱及甲家ノ子乙家ノ繼嗣タリシニ拘ラス其ノ間多少紛錯アルモ其ノ名ニ因テ其ノ實ヲ混スルコトナカルヘキナリ

第五十九條 親王内親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

恭テ按スルニ親王内親王ノ叙品王女王ノ叙位ハ蓋中古ニ在テ隋唐ノ制ニ依レルナリ皇族既ニ品位ヲ以テ班別ヲ爲シ而シテ親疎長幼ノ倫序從テ失ヘリ抑々皇族ハ生レテ潢流ノ尊榮ニ居ル而シテ人臣ノ位階ニ依テ陞叙スルノ比ニ非ス本條ニ品位ノ舊制ヲ廢スルハ一ハ倫序ヲ以テ重シトスルニ因ルナリ

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

恭テ按スルニ有栖川宮閑院宮ハ明治元年閏四月ノ令ニ依リ世襲親王タリ被仰出書ニ有栖川宮嫡子者即今先是迄之通爲御養子可有親王宣下 賀陽宮、山階宮、聖護院宮、仁和寺宮、華頂宮、聖高院宮、梶井宮ハ同令ニ依リ一代皇族タリ
始賜姓可三年十二月十日ノ令ニ四親王伏見宮、桂宮、有栖川宮、ノ外ノ親王家被列臣籍ハ二代目ヨリ賜姓華族ニ列セラル、コトヲ定メラル山階宮、東伏見宮、梨本宮十四年二月小松宮親王ヲ世襲皇族ニ山階宮親王ヲ二代皇族ニ列セラル十六年七月久通宮親王ヲ二代皇族ニ列セラル今典範ニ於テ已ニ皇養子皇猶子ノ制ヲ廢シタルトキハ從テ世襲親王ノ舊制モ亦廢除ニ歸セサルコトヲ得ス皇子孫ハ諸王ト雖亦皇族タルコトヲ失ハサルトキハ從テ賜姓ノ制及一代皇族又ハ二代皇族ノ家格ハ亦廢除ニ歸セサルコトヲ得ス

第六十一條 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

恭テ按スルニ皇族ノ各個財産及歳費廩給ノ方法及其ノ他皇族ニ係ル諸般ノ規則ハ蓋別ニ皇族令ヲ以テ之ヲ定ムトス故ニ典範ハ務メテ大體ヲ舉ク而シテ、詳細繁文ニ涉ルコトヲ欲セサルナリ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

恭テ按スルニ皇室典範ハ天皇立憲ヲ經始シタマヘル制作ノ一トシテ永遠ニ傳ヘ皇室ノ寶典タリ故ニ本條其ノ紛更ヲ慎ムノ意ヲ致スナリ抑憲法ニ據ルニ其ノ條項ニ改正ヲ要スルコトアルトキハ之ヲ議會ノ議ニ付シ特ニ鄭重

ナル方式ニ依リ議決セシム而シテ皇室典範ニ於テハ獨皇族會議ト樞密顧問ニ諮詢スルニ止マリ憲法ト同一ノ軌轍ニ依ラサルハ何ソヤ蓋皇室ノ事ハ皇室自ラ之ヲ決定スヘクシテ之ヲ臣民ノ公議ニ付スヘキニ非サレハナリ

皇室典範増補

(明治四十一年二月)

御告文

皇朕レ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ告ケ白サク皇室典範ハ

皇祖

皇宗ノ遺範ヲ明徴ニシ天壤無窮ノ宏基ヲ鞏固ニスル所以
ニシテ紹述以來爰ニ十有九年皇朕レ我カ諸昆ト俱ニ之ヲ
欽遵シテ敢テ違越スルコトナシ今ヤ國祺倍昌隆ニシテ
皇祖

皇宗ノ威靈遐ク四裔ニ顯赫タルノ時ニ膺リ進運ヲ照察シ
成典ヲ增益シ以テ尊嚴保維ノ圖ヲ廓ニシ子孫率由ノ道ヲ
裕ニスルハ亦

皇祖

皇宗聖謨ノ存スル所ニ外ナラス皇朕レ茲ニ皇室典範增補
ヲ制定シ仰テ

皇祖

皇宗ノ神祐ヲ禱リ永遠ニ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ
庶幾クハ

神靈此ヲ鑒ミタマヘ

天祐ヲ享有シタル我カ日本帝國皇家ノ成典ハ祖宗ノ洪範
ヲ紹述シテ敢テ違フコトアルナシ而シテ人文ノ發展ハ寰
宇ノ進運ニ隨ヒ制度ノ燦備ハ條章ノ増廣ヲ必トス是ノ時
ニ當リ朕ハ祖宗ノ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスル所以ノ良圖ヲ
惟ヒ且憲章ニ由テ以テ皇族ノ分義ヲ昭ニセムコトヲ欲シ
茲ニ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範增補ヲ裁
定シ朕カ子孫及臣民ヲシテ之ニ率由シテ愆ルコトナキヲ
期セシム

皇室典範增補

第一條 王ハ勅旨又ハ情願ニ依リ家名ヲ賜ヒ華族ニ列セシムルコトアルヘシ

第二條 王ハ勅許ニ依リ華族ノ家督相續人トナリ又ハ家督相續ノ目的ヲ以テ華族ノ養子トナルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ臣籍ニ入りタル者ノ妻直系卑屬及其ノ妻ハ其ノ家ニ入ル但シ他ノ皇族ニ嫁シタル女子及其ノ直系卑屬ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 特權ヲ剝奪セラレタル皇族ハ勅旨ニ由リ臣籍ニ降スコトアルヘシ
前項ニ依リ臣籍ニ降サレタル者ノ妻ハ其ノ家ニ入ル

第五條 第一條第二條第四條ノ場合ニ於テハ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經ヘシ

第六條 皇族ノ臣籍ニ入りタル者ハ皇族ニ復スルコトヲ得ス

第七條 皇族ノ身位其ノ他ノ權義ニ關スル規程ハ此ノ典範ニ定メタルモノノ外別ニ之ヲ定ム
皇族ト人民トニ涉ル事項ニシテ各適用スヘキ法規ヲ異ニスルトキハ前項ノ規程ニ依ル

第八條 法律命令中皇族ニ適用スヘキモノトシタル規定ハ此ノ典範又ハ之ニ基ツキ發スル規則ニ別段ノ條規ナキ

トキニ限り之ヲ適用ス

皇室典範增補

(大正二十七年十一月二十八日)

朕惟フニ祖宗ノ遺範ヲ紹述シ時ニ隨ヒ宜ヲ制シ以テ國運ノ進展ニ順應スルハ皇考ノ宏謨ニシテ朕ノ率循スル所ナリ今ヤ皇家ノ成典ヲ增廣スルノ要ヲ認メ皇族會議及樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ皇室典範增補ヲ裁定シ茲ニ之ヲ公布セシム

皇室典範增補

皇族女子ハ王族又ハ公族ニ嫁スルコトヲ得

附言

會員伯爵伊藤博文君帝國憲法及皇室典範ノ義解ヲ編成シ其稿本ヲ本會ニ寄贈セラレタリ君ノ意蓋シ學者ノ講究ニ資シ其發賣所得ノ利ヲ以テ國家學ノ擴張ヲ補セントスルニ在リ而シテ國家學ノ範圍ニ屬スル良著ヲ得テ之ヲ刊行販賣シ斯學ノ振興ヲ助クルカ如キハ固ヨリ本會ノ希圖スル所ナルヲ以テ喜ヒテ君ノ惠贈ヲ受ケ速ニ印刷ニ命シテ之ヲ世ニ公布ス因テ聊カ其緣由ヲ記シテ卷尾ニ附スト云爾

明治廿二年五月

大日本帝國憲法告文憲法發布勅語上諭並ニ皇室典範上諭皇室典範增補ハモト本書ノ掲クル所ニ非ス昭和十年四月改版ニ當リ目次ト共ニ本會ニ於テ特ニ附加シタルモノナリ

昭和十年四月

國家學會

國家學會藏版
 昭和二十二年四月廿四日印
 昭和二十二年五月十八日第十三號發行
 昭和二十二年六月一日出
 昭和二十二年四月十七日增補第十五版印刷
 昭和二十二年四月二十二日增補第十五版發行
 定價金壹圓貳拾錢
 憲法 義解
 丸善株式會社
 荒屋芳郎
 丸善株式會社
 荒屋芳郎
 丸善株式會社
 荒屋芳郎



國家學會藏版

發行者

丸善株式會社

右代表者 取締役 山崎信男

印刷者

荒屋芳郎

大日本印刷株式會社 印刷

發行所

東京市日本橋區通二丁目
掛箱口座東京第五番

丸善株式會社





